

令和5年度 自己評価計画書(最終報告)

石川県立ろう学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	分析及び今後の課題
1 授業改善	① 日本語獲得やICT活用等の視点で様々な発達段階から協議し授業改善を行うことで、聴覚障害教育の専門性を高め、センター的機能の充実を図る。	○研究研修課	【成果指標】 ・学部を超えて授業研究を行うことで、自分の授業づくりに生かすことができた。	授業づくりに生かすことができ たと思う教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 中間評価94% A 最終評価91% A	【成果】 学部を超えて授業研究を行うことで、子どもの将来像を思い浮かべて自身の授業では何を大切にすべきか、また必要な指導・支援は何かなどを考える経験ができた教員が多かった。 【課題】 「聴覚障害教育における専門性」の部分で、自分が指導するとしたらどのような支援を行うか、また、自分の担当する授業で行うとしたらどんな情報保障がよいか、といった視点で授業研究を行うことを、より具体的に伝えていく必要があった。
			【成果指標】 手話やオーディオロジー、及び本県の難聴児の早期支援の流れや卒業生の状況などの研修を通して、本校のセンター的機能の向上の責務について自分も一端を担っていることを意識することができた。	本校のセンター的役割を自分も担っていることを意識できた教員が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 中間評価91% A 最終評価100% A	【成果】 「聞こえない・聞こえにくい子どもにとってわかりやすい授業を実践する専門性を有していること」が自分の持つ「センター的機能」のひとつであると考えることができた。 【課題】 「本校の担うセンター的役割」の部分と、「聞こえない・聞こえにくい子どもわかりやすい授業、指導の工夫」等々が聴覚障害教育の専門性であり、センター的機能を発揮することにつながるということが意識できるような機会が必要である。
		○ICT推進委員会	【成果指標】 授業のとき、自分のICT端末でわからないことを調べたり、考えをまとめたり、友達と意見交換をしたりする等して、意欲的に課題の解決に取り組むことができた。	学習場面でICT端末を使って、意欲的に課題の解決に取り組めた児童生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童・生徒 中間評価72% B 最終評価83% A	【成果】 タブレット端末が自由に使える環境であるため、ほとんどの児童生徒が自分で情報を得たり、その情報を活用できたりしている。 【課題】 あまり使わない児童生徒には、検索以外でも学習の中でタブレット端末を使用できる場面を設定していくことが大切である。
学校関係者評価委員会の評価			・授業力を高めるため、他のろう学校、特別支援学校、普通校との交流することで他校を知り、研究会に参加するなどして研鑽してほしい。少人数であっても、ICT機器を効果的に活用するなどして、個の能力を最大限に発揮できるようにしてほしい。先生方が聴覚障害の子どもにとってわかりやすい授業をすることが、聾教育の専門性であり、センター的機能を担うことにも繋がることを若い先生に伝えていってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			・教科等の授業改善に繋がる子どもの特性に合った効果的な指導について、学部内で意見を出し合い丁寧な対応を積み重ねることを続けていく。一人一人の幼児児童生徒に応じたわかりやすい授業となるように、手話や文字提示、ICT機器等の効果的な活用を通して今後も工夫していく。			
2 安心・安全な学校づくり	② SNSやオンラインゲーム等での問題を家庭と共有し、聴覚に障害のある子の視点から安全にかつ情報モラルを守って使用できるよう取り組む。	○指導課	【成果指標】 ・安全にインターネットを利用できるよう、保護者と連携しながら、子どもの実態を踏まえ、モラルに則った使用方法を具体的な事例や体験等を通して、指導することができた。	子どもの実態を踏まえ、モラルに則った使用方法を指導できたと思う教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 中間評価96% A 最終評価93% A	【成果】 講演会等を機会に、生徒に指導することができた。また、自分たちでインターネットの活用方法を考える指導ができた。また、子どもから使用状況を聞き取り、指導が必要な場合は声かけしたり、保護者と情報共有したりできた。 【課題】 子どもたちがトラブルに巻き込まれず安全に活用していけるよう、保護者と教職員が連携して、インターネット等に係る最新の知識や情報を学び、共有して子どもたちを見守っていくことが求められる。
			【成果指標】 使用時間のコントロールやSNSによる友人関係等について、安全でモラルを守ったインターネットの使用方法があることを学び、学んだことを意識してインターネットを使用することができた。	安全でモラルを守って、インターネットを使用することができたと思う児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童・生徒 中間評価86% A 最終評価93% A	【成果】 小学部児童においては、時間やルールを守ってインターネットを使うことが意識できている。中高生徒においては、講演会等で情報モラルや危険性について学び、安全にインターネットを使用することが意識できている。 【課題】 家庭内でのインターネット利用状況等も含め、トラブル防止の観点から学習会や講演会等の機会を設け、子どもたち自身が安全にインターネットを利用する意識付け、定期的な指導機会を設けていくことが求められる。
			【成果指標】 ・安全にインターネットを利用できるよう、学校と連携しながら、モラルに則った使用方法について、子どもと話し合う場面を持ち、見守ることができた。	子どもと話し合ったことが子どものインターネット使用に活かされている様子が見えた保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者 中間評価83% A 最終評価87% A	【成果】 学校での指導が活かされている子どもの姿が見られ、家庭内でインターネット利用について子どもと話す機会が多くなったという報告があった。今年度も「ホットネット大作戦 & 情報モラル講演会」を育友会主催で学校と共同で実施することができた。 【課題】 情報モラル等具体的な事例や体験を通して指導を継続し、保護者にその指導の様子や情報提供を丁寧に行っていく。トラブルがあっても初めてわかることが多いので、トラブル防止に向け、連携して取り組んでいくことが大切である。
学校関係者評価委員会の評価			・特に意見はなかった。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			・今後も「ホットネット大作戦 & 情報モラル講演会」を育友会主催で開催するなど、トラブル防止に向け、連携して取り組んでいく。			

3 キャリア教育の推進	③キャリア教育全体計画と個別の教育支援計画の目標を関連付け昨年度作成したキャリアパスポートを活かし個々のキャリア発達を促す。	○進路指導課	<b>【満足度指標】</b> キャリアパスポートの活用や授業等においてキャリア教育の視点をもって指導する。	キャリアパスポートを活用し、児童生徒と共に振り返る指導をした担任が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 中間評価73% B 最終評価75% B	<b>【成果】</b> キャリアパスポートの活用2年目となり、子どもが立てた目標を学期ごとに振り返る場面を設け、ファイルに記録を残すなどの活用は概ねできている。 <b>【課題】</b> キャリアパスポートの活用方法の理解を進めるために、活用例を教員間で共有することが必要である。その為に、毎年の成長が振り返りやすい交流等の各年行事で、キャリアパスポートを一齐に活用できるようにする。
			<b>【成果指標】</b> 授業やキャリアパスポートの作成及び活用を通して、キャリア教育の視点で自分の目標を意識できた。	キャリアパスポートを活用し、自分について振り返ることができた児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童・生徒 中間評価76% B 最終評価82% A	<b>【成果】</b> 普段の学習活動をキャリアパスポートを使ってキャリアの視点で振り返ることが出来ている。 <b>【課題】</b> 毎年の成長が振り返りやすくするよう、交流等の各年で行う行事の設定が必要ある。
			<b>【満足度指標】</b> 懇談時等に担任から、キャリア教育の目標に対しての子の成長についての説明を受け、成長を確認できた。	懇談等でキャリア教育の視点で子の成長が感じられた保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	幼稚部保護者 中間評価100% A 最終評価100% A	<b>【成果】</b> 子どもの普段の様子や成長を保護者にわかりやすく説明され、保護者からキャリア教育だけでなく普段の教育活動について理解が得られている。
学校関係者評価委員会の評価	・キャリア教育、キャリアパスポートについて、もう少しわかりやすく提示してほしい。 ・幼稚部から、進路選択についても子どもに聞いてほしい。自己選択する力は必ず必要である。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・キャリア教育の取り組み状況については、保護者にわかりやすく説明する機会が必要である。行事や他校との交流など、キャリアパスポートを活用する機会を校内で設定し、懇談で伝える項目に位置づける。 ・自己選択の力を育むためには、日頃から必要な情報をきちんと伝え、自分事として判断する経験が必要であり、家庭とも共通理解していく。					
4 効率的、協働的業務の推進	④各課・各部の業務改善に向けて効率的、協働的業務の推進に取り組む。	○校務会	<b>【成果指標】</b> 効率的に業務を遂行するために、課や部内、もしくは他の部署と協働し時期や量の平準化を行うことができた。	協働的に業務を行い、時期や量の平準化が行えたと回答した課や部が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 中間評価59% D 最終評価92% A	<b>【成果】</b> ICTを活用することで教職員間の連絡やアンケート等の集約が以前より効率良くできるようになった。また、学部を越えて課の業務を分担することができた。 <b>【課題】</b> コロナ禍以前の活動ができるようになってきているが、今一度目的を共通理解し、効率化を考慮して計画することが必要である。校務分掌や部での担当の仕事などは周りからは見えづらい。業務一覧表のようなものを見ながら業務量の確認・調整できるとよい。誰が課員になってもスムーズに業務が遂行できるようにマニュアルを活用していく。
			学校関係者評価委員会の評価	・特に意見はなかった。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・課内の業務の平準化と効率化を意識するとともに、新年度、円滑に業務の引き継ぎができるように、年度末に見直したスケジュールやマニュアルを基に業務をスタートする。					